

令和元年度 第5回 津山市地域公共交通会議 会議要旨

令和元年12月11日（水）

13時30分～ 14人／15人

市役所東庁舎 1階 E101会議室

1 開会

2 会長挨拶

令和元年度のフィーダー系統確保維持国庫補助額について、2年前と同程度まで回復し安堵しています。国が地方の声をしっかりと受け止め、実情に応じた対応がなされたものと考えています。

本日は、協議事項2件、その他1件の議事があります。

主には、令和元年度生活交通確保維持改善計画の事業評価についてご協議ください。

3 協議事項

協議事項1) 令和元年度 生活交通確保維持改善計画の事業評価について

【事務局説明】

～内容説明～

～質 疑～

（委員A）

表の（3）～（6）について、目標が達成できず評価がCとのことだが、事務局の説明で利用者が10%や20%減少している説明はつきますか。

1年でこれだけ利用が下がるのは相当な話で、理由の中にはずっと以前のダイヤ改正の影響など、比較年度で既に起こっていた影響も含めて入っているが、それは大丈夫ですか。

車両更新で乗り心地が良くなりニーズが増えたことは良いことだと思うが、人数増の比較対象は去年の7月から9月であり、豪雨やそれに伴う路線の変更の影響など、元々下がっていたところと比較しているのではないか。それ以前の平成29年度との比較はどうですか。

阿波の交通空白地有償運送の利用人数減で、ドライバーが9人から4人に減る中で、もちろん人気ドライバーに顧客がついているのだろうが、組織として実施しているため、ドライバーが辞めるにあたり、お客様の引継ぎをされていないのか。お客様を別のドライバーに紹介されたのか。

（事務局）

1点目、表（3）～（6）について、事務局では平成27年度から前年対比で人口動態を調査しています。様々な原因が考えられ、時系列で見ると、平成22年のルート再編から平成27年あたりまでは、やや増加又は現状維持の状況が続いていました。その後、平成27年末頃からずっと減少しています。例えばイオン津山店の乗り場改善などして一時的に改善することもありましたが、通年で見ると全体として減少傾向にあります。

特に、ごんご勝北線で平成27年に実施したダイヤ改正で利用者が減少しました。それを受けて平成29年に戻しましたが、その2年間で減少した利用者は戻っていません。一度行ったボタンの掛け違えがずっと長い間影響しているのが原因のひとつではないかと推察します。

また、西日本豪雨災害の影響で利用は大きく減少しました。交通手段の代替が無い地域なので、一旦他の移動手段を見つけると、戻って来てもらえないのではないかと推察しています。

更に、起点から終点までかなり大回りをして運行しており、ここも利用者減の要因と考え、対策を

検討したいと考えています。

ごんご加茂線について、並行してJR因美線が走っています。西日本豪雨災害の際にはJRが運休し、一時的に利用者が増えましたが元に戻っています。

また、温泉施設のめぐみ荘に行くためのダイヤ改正後に利用者が大きく減少しています。津山方面から加茂への移動をターゲットとしていましたが、加茂から津山方面へ移動する方への配慮が欠けていたと推察され、その影響がこれまで続いています。

一方で、ごんご勝北線について明るい話題もあり、前回の公共交通会議以降、高野団地内への乗り入れを実施しました。運転手からは顧客がついてきたとの情報を得ています。

利用者のニーズとは、短絡的にその時々の意見に対応するのではなく、そのバックボーンを掘り下げ、ルートやダイヤを設定しなければ一旦離れた顧客は帰ってこないという実例であったと認識しています。今後は、このようなことを踏まえ、ルートや時刻は綿密に設定して参ります。

2点目、車両更新について、資料に系統7東循環線の平成28年からの利用者数を記載しています。車両更新が6月末のため、7・8・9月の実績を平成29年と令和元年で比較すれば、2年前からもかなりの増加が確認できます。また、今年の台風の影響で約2ヶ月間、道路が通れず大がかりな替え道運行がありました。通常、大規模の替え道運行があれば利用者は減少しますが、ほぼ変わりない状況を見ると、車両更新はかなり良い影響があったと分析しています。

3点目、阿波交通空白地有償運送については、事業者から具体的な話を伺っています。エコビレッジあばでは定年制を導入し、75歳になると安全運行管理上退職していただき、新しい運転手の確保に努めています。引継ぎ問題については、人気のある運転手は、気軽に頼んで使える足として使われていたようで、運転手が辞めて、新しい人を紹介しても人間関係が構築しにくい状況にある。小さな地域の地縁関係というところもあり、なかなか引継ぎがうまくいかない状況があります。

(委員B)

(3) 小循環線について、当初延伸の際に生活路線としての機能が損なわれるのではないかと危惧され、現在復元傾向にあるとのことだが、観光路線として見直しをすると、更に生活路線としての機能が損なわれる危惧があるのではないか。

(事務局)

今後、事業者との検討を考えており、生活路線として顧客がある程度ついていることから、ここを動かしてしまうと影響がありますが、土日の利用はかなり少ない。そのため、土日はある程度観光に特化した形態に変えていくことを検討しています。まなびの鉄道館に延伸した際に、生活利用者からは片道通行なので帰れないなどの不評、また、観光客には距離が長いため使いづらいという面もあるため、曜日によって変えていくことも検討したいと記載しています。

(委員B)

表中③の説明は

(事務局)

説明が漏れています。昨年に国から、色々とご指摘をいただき説明内容を修正しました。結果、定住自立圏事業ではありますが、第二種免許取得支援事業は良い評価をいただきました。そのような内容を含め、昨年実施した事業内容を列挙しています。(表③の内容説明)

～ 全会一致で承認 ～

協議事項2) 市内におけるバス停名称の変更について

【事務局説明】

紛らわしい、場所が分かりにくいバス停の名称についての変更協議です。

当初は、10月に向けてバス停の名称変更を検討していましたが、音声案内やバス停の標柱など準備が必要なため、令和2年2月から3月にかけての変更を予定しています。

今回は、分かりにくいと指摘のある、36箇所程度のバス停を提示しました。また、今まで「前」、「口」、「入口」など表現があり、このあたりの基準もあいまいであったため、今後名称に付ける際の基準を示しました。

件数も多く、全てを諮るのも大変なので、皆様にはお持ち帰りいただき改めて書面で依頼します。

中でも意見をいただきたいものがあります。右枠に「?」と記載したものですが、資料に具体的な場所や状況を示しています。これは、元々施設があった所にバス停がありましたが、現在は何も無いところ。「跡」「旧」という表現も考えたが、継続して使用するには適切ではないので、このあたりについてご提案をいただきたい。

路線の業者からの意見もいただき、表現が不適切なものもあると思われる所以、12月中に文書を発送しますので、1月中にご返事ください。

～質 疑～

(委員C)

補足情報として、消防機庫前というバス停は、他の場所にも存在します。

高田幼稚園前は、高田小学校前に「高田」というバス停があります。こちらを「高田小学校前」に変更して、高田幼稚園前を下横野などに変更する案も検討したいと考えています。

～ 全会一致で了承 ～

(会長)

協議事項1、2が終了しました。協議事項1の事業評価については、承認の内容で岡山運輸支局へ提出します。協議事項2については、期日までに委員の皆様の対応をお願いします。

4 その他

(1) 路線バス 年末年始のバスダイヤについて

【事務局説明】

例年この時期に中鉄北部バスから報告をいただいている。詳細は、中鉄北部バスから配布の資料をご確認ください。

計画にはごんごバスも含まれるので、今年度計画していた内容が一部変更となります。ここについては、事務局で変更手続きをしますので、一任下さい。

(委員C)

12月30日、31日は日曜・祝日ダイヤで運行を、1月1日から3日は、正月の特別ダイヤとして、更に便数を落としたダイヤで運行とします。

ごんごバスは、時刻表は無いが、勝北線・久米線・東循環線・西循環線で朝1便や最終便を運休します。

(会長)

こちらは、報告ということで皆さんご了承をお願いします。

変更手続きについては、事務局に一任お願いします。

5 閉会